

助成受給団体名	ふりがな とくていひえいりかつどうほうじんふようどにせんひやく 特定非営利活動法人ふよう土2100
実施期間	平成25年8月1日～同 26年 2月 28日
実施した事業の内容	<p>郡山市 「障がい児の被災者家族のためのサポート事業」 ■交流サロンひかり運営 「交流サロンひかり」内で障がい児の一時預かりを実施し、障がい者家族の生活支援に努めてきた。 (預かり時間・9:00～18:00 お盆休み 年末年始休み) 【成果】定期的に利用する子供が6人。不定期に利用する子供が10人。事業期間の中で、延べ361人の障がい児が利用し、居場所を確保することができた。夏休みから新しく利用したこどもの一人はアスペルガー症候群で学校以外は、母親と絶対にはなれることができなかつたのに、「交流サロンひかり」を利用している間、一人ではほかの利用者と仲良く遊んでくわしていた。お母さんから、「2時間でもこんなにゆっくりすることが久しぶりだった」との言葉をいただき、継続して事業を実施してきた成果があったなと感じた。避難者が一時帰宅のために、新規に利用したり、兄弟で利用したりケースが出てきた。 利用する子供だけでなく、お母さんたちが迎えに来た後も交流サロンひかりに立ち止り、スタッフやお母さん同士がなごやかに話すケースが多くみられ、障がい児家族のストレス軽減にわずかながらでもお手伝いできたかなと実感した。富岡町・双葉町・葛尾村からの避難者の定期利用も見受けられた。</p>
今後の課題	<p>自閉症だからできない。アスペルガー症候群だからわかってもらえないだけでなく、交流サロンひかりでの活動を通して、活動を通して自閉症、アスペルガー症候群の子どもたちに対するまわりの理解は広がってきたのはうれしく感じている。しかし、まだまだ保護者の方々が抱え込んでしまって、自分の子どもはてががかるからといって、活動を制限するケースが多くみられる。 自閉症やアスペルガー症候群の普通に小学校や中学校に通っている子供たちと変わらない。可能性を秘めていることをさらに啓蒙していく必要がある。 活動を通して、利用している子供たちのできることは自立活動を通して増えてきたけれども、外遊びがいまだに制限される環境の中、もっと体を動かしてやりたい。</p>

